

ほっと人権

—第11号—

平成19年1月25日・26日

学校支援部 人権教育担当

「Children First!」これがユニセフのモットーです

【研修会】第40回ユニセフ研修会

【日程】平成19年1月25日（木）・26日（金）

【会場】ユニセフハウス（東京都港区高輪4-6-12）

【参加者】66名（全国各地の指導主事や校長会の代表者が中心）

【研修の概要】

- 説明「ユニセフの特長」
- 展示コーナー見学
- 実践報告「文部科学省エイズ教育（性教育）推進事業」
- 講演「ユニセフ教材を活用して21世紀の教育を創る」
- 説明「ユニセフ学校事業部の取組」・紹介「学校で活用できるユニセフ資料」
- 説明「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）の成立とその最近の動き」
- 講演「子どもたちをHIV／エイズから守るために～アフリカ・レソト王国を訪れて～」



ユニセフハウス



品川駅から
徒歩5分程度

■ユニセフ（UNICEF）とは？

ユニセフは世界156の国と地域において約1万人もの職員が活動しています。ユニセフは、**United Nations Children's Fund**の略称で、日本語に訳すと「国際連合児童基金」です。でも上の略称なら**UNCF**でしょう。おかしくない？そうです、確かに変ですね。実は設立当時には、**I**nternational（国際的な）と**E**mergency（緊急）の2語が含まれていたのです。ユニセフは、1953年から活動の重点を開発途上国の子どもたちを対象とした社会開発へと移行し現在に至っています。その間にノーベル平和賞を2度も受賞しているのですが、この事実は案外知られていないのではないのでしょうか？



1階展示コーナー

■日本もユニセフから支援してもらっていた！

ユニセフというと募金、そのうえ日本は募金をする側というイメージを持っている人が多いのではないのでしょうか。実は担当者も研修に行くまではそうでした。実際は1949年から64年までの15年間に65億円相当の支援を受けています。今の金額に換算すると1200億円という巨額になります。

■これだけは知っておきたい世界の現状

ユニセフの調査によると「予防可能な病気等で死亡する5歳未満の子ども」の数が年間1500万人（3秒間に1人、1日に3万人）、「5歳未満の子ども」の3分の1が栄養不良、「安全な水が飲めない子ども」が10億人、「住んでいる地域に衛生施設がない子ども」が25億人、「小学校の就学年齢に達しているのに学校に通えていない子ども」が1億1500万人、「出生が未登録の子ども」が毎年4800万人（実にこれは全出生数の36%を占めます）非常に厳しい現実です。ここでは紙面の関係で詳細は省きますが、詳しく知らないという方は、**日本ユニセフ協会のHP**を開き、これらの問題に一度向き合うことをお勧めします。[\[www.unicef.or.jp\]](http://www.unicef.or.jp)



現地の医療機関
を再現

■ユニセフって、資料も作っているの？

ユニセフが資料を作成していることは案外知られていません。知っている方でも「世界子供白書」のような報告書類を例に挙げる場合が少なくないのではないのでしょうか。でも、もっと気軽に読める資料があります。例えば「T・NET通信」（Teachers' Network 通信の意味）はA4サイズ8ページ程度の紙面に最新の情報を簡潔にまとめたもので、平易な文体で書かれています。子ども向けには「子どもの権利条約カードブック」や「ユニセフの世界のともだち」などがあります。前者は子どもの権

利条約を学ぶ際に有効な教材になりますし、後者はユニセフの活動の概要をつかませるのに最適な教材といえます。でも、使い方が分からないので不安だという方には、「ユニセフ活動事業例」という冊子もあり、すでに有効に活用している学校の実践事例を掲載していますので、心配は無用です。なお、紹介したこれらの資料は、非常に安価な金額（中には無料のものもあります）で手に入れることができます。詳しくは日本ユニセフ協会・学校事業部（TEL:03-5789-2014）に問い合わせてください。

■ユニセフハウスでは、見学ができるの？

先進 37 か国に設置されているユニセフ国内委員会のひとつである「財団法人日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）」の事務局が置かれている建物がユニセフハウスです。その 1 階と 2 階には展示コーナーが設置されており、予約をすれば見学することができます。ユニセフでは、近隣の学校であれば社会見学、遠くの学校の場合は修学旅行等による見学を積極的に受け入れています。



写真①はユニセフが支援した教室を再現したものです。ランドセルにもユニセフのマークが入っています。②は子どもたちが原料を加工して作った洗濯用石鹸です。手袋をせずに作業をするため皮膚炎を起こしたり、使う薬品のせいで肺炎になったりする子どもがいるそうです。③は対人地雷のレプリカです。④は破片式地雷で、ギザギザの入った破片が 100m 四方に飛び散り半径 25m 以内の人を殺す威力があります。このほかにも少年兵が使っている自動小銃のレプリカやネパールで使っている水がめなどいろいろなものが展示されていました。

■エイズは大人の問題か？

エイズは大人の問題である。みなさんの心の中にこういう意識はありませんか。日本に住む私たちには、多かれ少なかれあるのではないのでしょうか。しかし、日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんのお話を伺うことで「それは違う！」と断言できるようになりました。担当者は彼女の講演から衝撃的な事実を知りました。世界中で子どもたちの間に、15 秒間に 1 人というものすごい勢いで HIV 感染者が増えているんです。エイズ孤児と呼ばれる子どもたちが実に 1500 万人。その 9 割がアフリカにいるそうです。アグネスさんが訪問したのは、その中でも特に厳しい状況におかれているレソト王国（国全体が南アフリカ共和国〔以下、南ア共和国とする〕の中にある小さな国）です。

…この国では国内にこれという産業がないため、成人男性の約 70%が南ア共和国に出稼ぎに行く。南ア共和国も HIV 感染率が高い国なので、出稼ぎに行った男たちがここで感染し、それを自覚することなく故郷に帰る。そしてそれをパートナーに移してしまう。病院が極端に少なく、整った医療が受けられないため、働き盛りの 30~40 代の両親が亡くなっていく。こうしてエイズ孤児が増える……簡単に言えば、レソトはこういう状況に置かれているのです。

アフリカの国々は大家族で暮らしているので、親が病気で亡くなったとしても親類や知り合いが面倒を見るのは当たり前のことなのです。しかし死因がエイズとなると状況は違います。遺体の埋葬はしてもらえない、子どもの面倒も見てもらえない（子どもの年齢が低い場合、それは死を意味する）、空腹に耐えかねたエイズ孤児が、大家族の中に入って来ようとして殺されたという事例もあるそうです。

エイズ孤児のきょうだいや 30 歳という若さの末期患者と会い、直に話をし、一緒に料理をしたり歌を歌ったりして時間を共有して来られたアグネスさんは表情豊かに、臨場感たっぷりに話してくださいました。1 週間前に手術したことなど、みじんも感じさせない毅然とした態度と口調に、参加者全員、身の引き締まる思いをすると同時に、日本ユニセフ協会大使としてのアグネスさんの使命感の強さを感じました。



ベトナムで使われているエイズ教材



ユニセフでは子どもたちに対するエイズ教育も行っています。